

令和元年度 地歴・公民科初任者研修会 事後報告書

報告者 勝俣 健

1. 研究目標 「興味・関心を高め主体性を育む社会科の授業」
2. 実施日時 令和元年 10 月 6 日（水） 12：50～16：30（受付 12：30～12：50）
3. 研修会場 藤枝明誠中学校・高等学校
〒426-0051 藤枝市大洲 2 丁目 2 番地の 1
TEL 054-635-8155 / FAX 054-635-8494
4. 参加者 社会科および地歴・公民科新任教員（1～5 年目）
社会科および地歴・公民科関係教員 27 名
5. 指導講師 研修委員 関本和彦先生（常葉大学附属橘中学校・高等学校 校長）
6. 日 程
12：15～12：35 受 付（4F 図書館にて）

12：35～12：35
開会式（4F 図書館にて）
会場校長挨拶 埴 博 先生（藤枝明誠中学校・高等学校 校長）
指導講師挨拶 関本和彦 先生（常葉大学附属橘中学校・高等学校 校長）
副部会長挨拶 勝俣 健 先生（部会長代理・御殿場西高等学校 教諭）
授業者の紹介
日程説明

13：05～13：55 研究授業①（6F 視聴覚室にて）
市川博紀 先生
日本史 B 「第二次世界大戦 三国防共協定・日中戦争」
（英数科 3 年 8 組～11 組）

14：05～14：55 研究授業②（6F 視聴覚室にて）
辻 俊行 先生
政治・経済「食料と農業問題」
（普通科 3 年 2 組）

15：05～16：05 反省会（6F 視聴覚室にて）
講評 関本和彦先生（常葉大学附属橘中学校・高等学校 校長）

16：05～16：10 閉会式（同上）

反省会意見

○4 グループによる意見交換と発表

- ・教材研究がしっかりしていた。
 - ・生徒のグループワークが意欲的でよい。
 - ・日中戦争の内容が薄い。
 - ・生徒に丁寧に伝えようとする意識が良い。
 - ・板書の工夫が必要。(漢字の書き順)
 - ・発問の仕方良くない。生徒が何を答えればよいか戸惑い。
 - ・要点を絞り分かり易く説明していた。
 - ・主発問に向けての、いくつかの簡単な発問を工夫。(時間短縮にも)
-
- ・生徒の授業に対する取り組みが良い。生徒とのコミュニケーションも良い。
 - ・授業のテンポが良い。
 - ・授業テンポが良すぎて、片面用語の説明不足があった。
 - ・パワーポイントが見やすく分かり易い。
 - ・基礎用語の定着ができていたか不安。
 - ・他教科との横断的な授業(政経と英語)は良い。

○指導講評

- ・1時間の授業の中で何を1番伝えたいかが大切。授業後半を急ぎ、もったいなかった。
 - ・生徒との信頼関係が見えた。
 - ・机間巡視良い。
 - ・板書文字の癖を直す。
 - ・日中戦争前で区切り、2授業時間分だったか。
 - ・戦争に向かわざるを得ない国際情勢など、多くの要素が絡み合い難しい単元。
 - ・勝者の歴史。そのため不確かな部分がある。
 - ・「みんなならどうする？」などの質問で考えさせる。
-
- ・パワーポイントとプリントを上手く融合させていた。
 - ・生徒のことをしっかりと理解している。生徒も同様に授業者のことを分かっている。そのためお互いが盛り上げようとする良い授業だった。
 - ・統計を上手く利用していた。
 - ・授業にはストーリー性が必要。生徒に問題を投げかける、考えさせる。流れ必要。
 - ・公民科は、生徒が私生活で新聞・インターネットなど出来事に感心させる。
-
- ・1授業時間はフルコースの料理と同じ。きっかけ・深める・まとめる(定着)の流れ。
 - ・流れ(ストーリー性)のある授業は面白い。